課題解決型データ利活用メソッド概要版

1．メソッドの位置づけ

北九州市では、「北九州市DX推進計画」の中で、「証拠に基づく政策立案（EBPM）」について、「課題解決を主眼とし、形式的な方法論にとらわれることなく、徹底的な情報（データ）活用に焦点を絞ります」と定義しています。特に、「課題解決型のデータ利活用」の前提となる「課題設定」の方法論が体系的に整理されていないことから、投入した労力（徹底したデータ利活用）に見合った適切な「成果」が得られるようなメソッドを構築することが必要と考えます。メソッド構築における基本方針は、「解決すべき本質的な課題抽出に向けて、問題や課題設定など節目において、一度立ち止まり深掘りをすることで、効率的・効果的な課題解決が実現可能なメソッド構築を目指す」とします。

2．用語の説明

メソッドを活用する際、関係者が共通の目標認識を持ち、検討協議を行うことが重要であるが、多くの協議の場では、用語の意味が明確に定義されないまま進むことで、「個々の認識のブレ」が発生したまま議論が進むことがあります。このような「個々の認識のブレ」を最小限に抑えるため、一般的に曖昧に用いられている用語について、メソッド内のみで活用する独自呼称を用いて、右表のように定義します。

独自呼称	内容
プロブレム	・目的、計画、あるいはあるべき姿に対して、期待と異なる状態
イシュー	・プロブレムをあるべき姿に近づけるために達成すべきこと
トゥードゥー	・イシューを実現するために実施する具体的なアクション
アウトプット	・達成すべきイシュー、実施すべきトゥードゥーの目標値および、達成、実施後の結果
アウトカム	・アウトプットから得られる評価

3．プロブレムからトゥードゥーの実施内容

プロブレムの設定

①「本当に求めていることが表現できているか、本当に解決すべきプロブレムは何か」など、本質的な解決を目指すため、できるだけ多くのプロブレムの仮説を立てます。
②プロブレムの仮説が正しいことを検証するためのデータを集めます。
③データを用いてAsIsの内容、ToBeの内容の分析・検証を行い、内容が正しいことを確認します。検証データが無い場合には、内容の妥当性を説明します
④検証結果から、プロブレムの仮説毎にToBeとAsIsのギャップを抽出します。
⑤プロブレムの仮説毎に、プロブレムが理想の状態となることを評価するアウトカムを設定します。
⑥プロブレムの仮説毎に、プロブレムを解決すべき時間軸を設定します。
⑦プロブレムの仮説から、「政策判断、データの存在しない仮説への対応」に留意し本当に取り組むべきプロブレムを選択します。

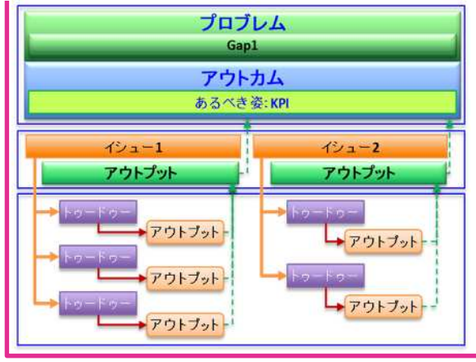
イシューの設定

①「本当にプロブレムを解決できる内容なのか、あるいは解決できそうな内容であるか」など、プロブレムの解決に向けて、達成すべきイシューの仮説をできるだけ多く立てます。
②イシューの仮説が正しいことを検証するためのデータを集めます。
③データを用いて、仮説を立てたイシューの内容の整合性・妥当性などを検証します。検証データが無い場合には、仮説の妥当性を説明します。
④イシューの仮説毎に、イシューの達成を評価するアウトプット（具体的な数値）を設定します。
⑤イシューの仮説毎に、イシューを達成すべき時間軸を設定します。
⑥設定したアウトプットとアウトカムの相関関係を整理します。
⑦イシューの仮説に対して、実施の期待度や効率性の観点から、プロブレムを解決するために必要なイシューの優先度を設定します。

トゥードゥーの設定

①「本当にイシューを達成できる内容なのか、あるいは達成できそうな内容であるか」など、イシューの達成に向けて、実施すべきトゥードゥ―の仮説をできるだけ多く立てます。
②トゥードゥ―の仮説が正しいことを検証するためのデータを集めます。
③データを用いて、仮説を立てたトゥードゥ―の内容の正当性・実現方法などを検証します。検証データが無い場合には、仮説の妥当性を説明します。
④トゥードゥ―の仮説毎に、トゥードゥ―の実施内容を評価するアウトプット（具体的な数値）を設定します。
⑤トゥードゥ―の仮説毎に、トゥードゥ―を達成すべき時間軸を設定します。
⑥イシューに設定したアウトプットとトゥードゥ―に設定したアウトプットの関係性を整理します。
⑦トゥードゥ―の仮説に対して、実施の期待度や効率性の観点から、イシューを達成するために必要なトゥードゥ―の優先度を設定します。

4．アウトプット・アウトカムの関係性の整理



①アウトカム、アウトプットの関係性は、トゥードゥーのアウトプットの積み上げが、イシューのアウトプットの達成に繋がり、その積み上げがアウトカムを達成します。
②イシューに設定したアウトプットの結果は、定期的に状況確認を行い、見直しなどを行う必要があります。
③トゥードゥに設定したアウトプットの実施状況は、定期的に状況確認を行い、見直しなどを行う必要があります。
④KPIは、プロブレムの検討の中で設定するあるべき姿に近づけるために目指すべき目標値を設定します。

5．メソッド設定の留意点

- 本メソッドでは、上流から下流の流れに沿って検証する手法を提示していますが、実際の行政課題では、下流から上流に向かった検討が必要なケースが存在します。
- プロブレムを設定する際には、ジョブ型とメンバーシップ型が存在することを理解したうえで、プロブレムの内容によって適した設定が必要になります。
- プロブレムの設定において、市民の利便性向上を意識した目線の定義を行う場合は、プロブレムの解決により利益を受ける人の優先順位などを定める必要があります。